

令和3年度第三セクター経営評価結果及び対応について

職業訓練法人青森情報処理開発財団

1 令和3年度 経営評価

評価項目	目的適合性	効率性・効果性	組織運営の健全性	財務の健全性	透明性	自立性
第一次評価	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好
第二次評価	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好	概ね良好

入学生確保に向けた取組の強化により定員を上回る入学生を確保でき、損益がプラスになったことで財務状況が改善され、すべての項目において「概ね良好」という結果になっている。

※参考 令和2年度決算

- 当期損益 12,248千円 累積損益 403,124千円
- 市からの収入 352千円（経常収益に占める割合R2：0.27%←R1：0.32%）
うち競争によらないもの352千円（経常収益に占める割合R2：0.27%←R1：0.32%）

2 第三セクターの対応

◆経営戦略プラン(R2～R4)の取組と計画

「地域の高度情報化に貢献する人材の育成」という使命を継続的に果たすためには、安定的な財政基盤(入学生の確保)の構築が不可欠という経営戦略方針に基づき下記取組を実施。

○具体的取組

- ① esportsクリエイト専攻のPRや高校訪問体制の拡充など効果的な学生募集策の実施
- ② 地域で求められているチャレンジマインドに溢れるICT人材の育成
- ③ 社会で即戦力となる人材の育成と就職指導・支援の強化による就職率の維持
- ④ 自主財源の確保や経費の抑制等による財政基盤の改善・強化
- ⑤ 情報の有効活用や管理の厳格化等による業務運営の効率化・健全化

○財務計画:令和2年度から令和4年度までの当期損益は黒字に転換

(R2：844千円、R3：13,665千円、R4：13,596千円)

【取組状況】

令和2年度に県内初導入した「esportsクリエイト専攻」のPRや、募集担当(県立高校校長OB)を中心とした高校訪問など、効果的な学生募集策を継続した結果、令和3年度の入学生は定員の60名を上回る72名(前年度比△4名)となり、2年連続で黒字化する見込みとなった。

引き続き入学生の定員確保を目標に、令和3年度は、前年度に効果的であった学生募集策の継続に加え、道南地区及び秋田県北地区への広報活動とWeb媒体を利用したPRを強化し、知名度の向上に努めている。

これらの取組の結果、令和4年度の入学予定者数も定員を上回ることが見込まれており、今後も経営戦略プランに基づき、環境変化に対応したカリキュラムによる職業訓練を行うとともに、入学生確保に向けた取組を強化し、財務基盤の黒字安定化に努める。

3 市の対応

これまで行ってきた経費削減、学生募集策強化等の取組により、令和3年度における正味財産の経常増減額も黒字化が見込まれているが、経営の継続的な健全化のため、経営戦略プランに基づき、安定的な入学生の確保に向けた取組が計画的に実施されるよう、引き続き指導等を行っていく。